

第9回 国際サゴヤシシンポジウム, オープニング

Report of Opening Session in 9th International Sago Symposium

犬伏和之

千葉大学大学院園芸学研究科環境園芸学専攻 〒271-8510 千葉県松戸市松戸648

第9回国際サゴヤシシンポジウムはフィリピンのレイテ島北西部の鏡のように静かなオルモック湾に面したサビンリゾートホテル2階の大ホールで2007年7月19日から3日間の予定で開催された。

開会式では、キリスト教徒の多いフィリピンにふさわしく、まずシンポジウムの成功を期して神への祈りが捧げられ、国歌斉唱に続き、開催地を代表してビサヤ州立大学（本年4月にレイテ州立大学から改称）のDr. Paciencia Milan学長より歓迎の挨拶があった。他のサゴ栽培先進国に較べればフィリピンのサゴ栽培や研究の歴史は短い、この地で本シンポジウムが開催されることになった経緯や関係者への謝辞が熱く述べられた。女性大統領に擁せられるこの国では女性の学長も珍しくない、と後で聞いたが、このシンポジウムでも食品関係の研究者を中心に女性参加者は全体の約1/3に及んでいた。

この歓迎の挨拶に呼応したメッセージが、日本サゴヤシ学会長の岡崎正規教授（東京農工大学）から、本シンポジウムの歴史や背景を交えて語られた。岡崎先生もレイテへの来訪を重ねてこれ、その共同研究の成果も発表される本シンポジウムが、無事開催に漕ぎ着けたことにひとしおの感激を隠せない様子であった。

続いて、ビサヤ州立大学内に設立されたPhilRootcrops研究所長のAlgerico Mariscal教授によって基調講演者であるPCARRD（フィリピン農林業自然資源研究開発会議）のDr. Patricio Faylon所長が紹介された。基調講演では、フィリピンにおけるサゴヤシ研究に関する歴史と今後の展望が述べられた。

その後、シンポジウム事務局から参加者が一

人一人紹介され、お互いに初対面や旧知の仲を確認し合い、事務局長のDr Jose Bacusmo氏が開会を宣言し、開会式は幕を閉じた。



写真1 第9回国際サゴヤシシンポジウムが開催されたサビンリゾートホテル正面



写真2 ビサヤ州立大学Dr. Paciencia Milan学長より歓迎の挨拶